

育自樂習塾 みんなでずっと健康に！

～よりよい生活習慣が元気のヒケツ～

11月18日(火)福井県健康政策課三上さんに「みんなでずっと健康に！」と題して、高齢者が健康で元気にすごすためのヒケツをお話いただきました。

介護を必要とせず日常生活に制限なく自立して生活できる期間を健康寿命といいます。健康寿命を延ばすために必要なことは、栄養・運動・社会とのつながりだそうです。

育自樂習塾に参加されている皆さんには、日ごろから運動をしたり、社会とのつながりをもたれているので、健康意識が高く、県の職員さんも驚いていました。



主催 鮎江公民館

着付け教室を開催しました



着物を着ると背筋が伸びて、
美しく見えますね！

主催 鮎江公民館



男の料理教室



主催 鮎江公民館

11月14日(金)「男の料理教室」を開催しました。参加者は13名で、アジの三枚おろしに挑戦しました。

講師の池田雅直さんに、手本をみせてもらい、さっそく3枚おろしに取り掛かりました。皆さん包丁さばきが上手で驚きましたが、フライにするため油で揚げるところで意外とこづってました。無事に完成したアジフライは身がふっくらとしてとてもおいしかったです。他にも新鮮なフクラギの短冊でナメロウを手早く作り、ネギと豆腐のお味噌汁と一緒にいただきました。皆さん調理を楽しんでいました。習った料理をご家族に振舞っていただくといっそう喜ばれると思います♪



先生の見事な包丁さばき
一同感心！

出刃包丁で挑戦

ころもをつけて油で揚げます

まなべっこ

12月10日(水)ふれあいみんなの館さばえにて、講師の山口美枝さんをお招きしクリスマス会を開催しました。大きなサンタさんも来てくれました。



主催 鮎江地区子育て支援ネットワーク委員会

ボーリング大会 元気に動いて…楽しんで…

～鯖江地区老人クラブ連合会～

11月19日(水)、鯖江市内のアルプラザボウルにて、鯖江地区老人クラブ連合会主催のボーリング大会が開催されました。36名の皆さんが出場し、会場は活気にあふれました。

開会式では桑原会長から「楽しみながら健康づくりを進めていきましょう」とあいさつがあり、ゲームがスタート。参加者の皆さんには、昔取った杵柄とばかりに、見事なフォームで次々とレーンにボールを投げ込みました。

ストライクやスペアが決まるたびに大きな歓声と拍手がわき起こり、またミスがあっても和やかな笑いが広がるなど、終始温かい雰囲気に包まれていました。

優勝者は男性の部は水津達夫

(屋形町)さん、女性の部は黒田和代(深江町)さんでした。参加者からは「久しぶりに本気になれた」「仲間と一緒に楽しめて良い一日だった」との声も聞かれました。

ストライクやスペアが決まるたびに大きな歓声と拍手がわき起こり、またミスがあっても和やかな笑いが広がるなど、終始温かい雰囲気に包まれていました。



第9回さばえ狂歌コンクール



「第9回さばえ狂歌コンクール」の表彰式が、鯖江市まなべの館で11月30日に開催されました。



今年は、26都道府県から711首の狂歌が応募されました。狂歌は、自由奔放な表現とユーモア、そして社会への鋭い批評が特徴です。皆様も、日常の出来事を題材にして、軽い気持ちで狂歌を詠んでみてはいかがでしょうか。次回のご応募をお待ちしております。

鯖江地区まちづくり応援団 徳橋忠夫

「間部公をたたえる会」関連事業

間部の殿様学習会開催

開催日：11月26日・28日

惜陰小学校と進徳小学校の6年生を対象に、鯖江の礎を創った間部公の遺徳や功績を学ぶとともに、日本を代表する伝統文化「茶道」体験を行いました。

惜陰小学校の児童は、萬慶寺久我尋孝方丈様から本堂の天井絵の説明を聞き、その大きさと迫力に圧倒された様子でした。また、「間部家と鯖江藩」について、間部公をたたえる会の岸松茂顧問にお話をいただきました。

進徳小学校の児童は、鯖江市まなべの館・藤田学芸員より鯖江藩の成り立ちやその背景、幕末における詮勝公の活躍について学びました。また、千利休が広めた「茶道」の体験では、お茶の心「和敬清寂」の意味や礼儀作法についてわかりやすく教えていただきました。ご指導くださいました鯖江市茶道連盟表千家の皆様ありがとうございました。



【萬慶寺本堂の天井絵(惜陰小学校児童)】



【茶道体験(進徳小学校児童)】

第46回間部忌法要（萬慶寺）



【李右衛門法要】

12月6日(土)、落ち葉で覆われていた祠(西山公園内)をきれいに清掃し、12月15日(月)に李右衛門を偲んで法要を行いました。(間部公をたたえる会)

【藩士平柳李右衛門悲話】

勘定所勤めの平柳李右衛門は正直な頑固者として知られていたが、年貢米札不正のかで打ち首となった。その子李之助も牢死し平柳家は断絶した。それから百年余りの年が移り、第7代藩主間部詮勝の夢枕に李右衛門が現れて連夜名乗ったため、往時の事件再調査を命じたところ、冤罪であることがわかり、主犯の子孫は領外追放、平柳家は妻の実家の者に再興された。そして、藩主詮勝は三日二夜にわたる法要を行い、篤く弔った。

(概要)「間部日誌」より